



7/15
MON



夏の盛りを告げる花火
小瀬川下流

f 例年より少し早めの「大竹・和木川まつり花火大会」。県境を流れる小瀬川の空を大輪の花火が飾りました。夕暮れどき、川の両岸や大和橋は、陣取る観客で埋め尽くされます。橋の上で「大瀬太鼓むすび衆」の演奏が高らかに響けば、上流からは願いを託した200丁の灯ろうが、漂ってきます。演奏終了を合図に打ち上げが始まり、およそ1500発の花火が夜空を彩りました。見終わった重村太洋くん（大竹小2）は、「花火がババババーンとたくさん上がって楽しかった」と興奮気味。本通りに立ち並ぶ露店を歩き交う人でにぎわう光景は、夏の大竹の風物詩です。



①花火の音が夏を告げます。②夜空を飾る打ち上げ花火。③川岸を埋め尽くす観客。④本通りには露店が立ち並び、浴衣姿の女性が行き交います。⑤かき氷、つめたーい。⑥見て、見て金魚。⑦人権擁護委員の皆さんがうちわを配って啓発活動。

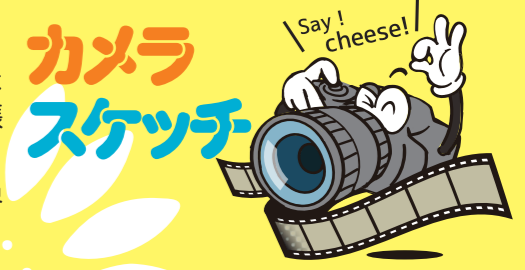


7/8
MON

安全な花火で楽しい夏を
大竹保育所

安全な使い方を覚えて花火を楽しんでもらうため、消防本部が、市内8カ所の保育所や幼稚園などを巡回し、今年で3回目になる「おもちゃ花火教室」を開催しました。大竹保育所では、60人の子どもたちが見守る中、消防職員と保育士が寸劇で誤った遊び方を演じます。子どもたちは「子どもだけでしない。人に向けない」などの正しい使い方を学びました。年長組の24人は花火に火をつけて、習ったとおりに練習。手に持った花火からシューッと火花が飛び散り、煙が立ちのぼると「ちょっと緊張した」と感想をもらします。最後に「けがをしないで楽しい夏を過ごしましょう」という消防職員の呼び掛けに、子どもたちは「はい」と元気よく答えました。

①ちょっと心配そうに火を見つめます。②人に向けてはいけないと、花火の小道具を使って演じます。③「花火をやったことある人」と聞くと、「はい」と手が上がります。④正しい花火の遊び方を練習。



①カードを使った仲島さんのアナログ的な見せ方は逆に新鮮。②更生保護女性会の合唱で幕を開けます。③岩塚芽衣菜さん（玖波中3）、二階堂日向子さん（小方中3）、藤川琴美さん（大竹中3）の3人が意見発表。④客席を埋める人たちが講演に聴き入ります。

アゼリアホール
青少年の健全育成に取り組む市民団体などが集う「市民のつどい」が開催され、講演や中学生の意見発表が行われました。更生保護女性会による合唱、「ひまわりの譜」がオープニングを飾り、保護司会の西川健三会長から入山市長に、安倍首相からのメッセージが伝達されました。教育サポーター、仲島正教さんの「あーよかったな あなたがいて、優しさという温かい貯金」と題した講演では、教員経験に基づいたユーモアたっぷりの話に、会場は笑いに包まれながらも、子どもに接する熱心な姿に共感の様子でした。意見発表をした岩塚芽衣菜さん（玖波中3）は、病気を通して健康のありがたさを知り、周囲の人の優しさに気づき、「つらい思いを持っている人を支える人になりたい」と決意を述べました。



7/6
SAT



7月6日 写真愛好家のグループ「写交会」と生涯学習グループ「デジカメサークル」が合同で作品展を開催。ギャラリーおおたけに82点の作品が展示されました。中国地方などで撮影された風景や花、街角の女性の顔の看板と題材もさまざま。古民家と桜が写された「里の桜」と題した作品に見入る女性は、「夫の出身地がこんな風景。思い出します」と、懐かしそうでした。

6月29日 大竹国際交流協会主催で、他国の文化を知ることで相互理解を深める「国際理解講演会」が、ギャラリーおおたけで開催されました。カナダ出身のジャミラ・パラスさんが、日本との文化の違いについて講演。参加者からは「ピーパーが家のすぐそばの川にいと知り驚いた」との声も。プラスチック製のカナダドルのお札も見せてくれました。

6月18日 大規模な地震を想定した防災行政無線による訓練が行われました。消防署に見学に来た立戸保育所の子どもたちは、訓練放送の前に消防隊員から地震のとき、屋外ではどのような姿勢で身を守るかを習いました。緊急地震速報が流れると、子どもたちは一斉に身をかがめ、頭を押さえた姿勢で、じっと待ちます。訓練終了の合図があると、ほっとした表情でした。

f のついているものは、これ以外の写真も大竹市公式フェイスブックで見ることができます。